

1	事業名	試験研究調査費	予算額	23,600 千円
2	事業細目	(試験研究調査項目) 増養殖研究費(温水魚資源対策調査研究)	予算額	3,000 千円
3	期間	61年度～63年度	予算区分	委託費
4	担当者	水谷、山中、吉原、津村(振興協会)松尾、竹岡		
5	目的	本県の栽培事業計画では、フ化仔魚を湖中施設で保護育成のうえ、放流するという方式を進めており、この事業の円滑な運営、安定化を図るとともに、効果的な放流技術をめざし、3ヶ年計画で調査研究を行なう。		
6	方法	(1) 沿岸帯環境調査……湖中保育場、および対象水域の基礎環境調査 地形、水底質、ヨシ、水草、餌料生物等。 (2) 網生簀養成試験……生物餌料の飼集方法の検討等。 (3) 放流魚の動向調査……放流魚の採集方法の検討、成長、分布、移動等調査 (4) 害敵駆除……害敵生物の分布、生息状況調査、害敵駆除装置の駆除状況。		
7	結果の概要	1. 沿岸帯環境調査……海老江、長命寺、雄琴の各保育場において、4～8月の5ヶ月間、水底質調査、餌料生物調査を実施した。餌料生物保存試料を分析中である。 2. 網生簀養成試験……水試の大型試験地(10-3号池)で、7月、8月の2回、ホンモロコとニゴロブナの網生簀養成試験を実施した。電照とポンプアップによる餌料の収集状況について、保存試料を分析検討中である。 3. 放流魚の動向調査 } …… 海老江保育場とその周辺で沖曳網、四手網、小型定置網、刺網、投網等で、4月～10月にかけてそこに棲息する魚種を採集するとともに近隣で漁獲されるニゴロブナ、ホンモロコを採集した。採集した標本について測定整理中であるが、概略としては次のとおりである。 4. 害敵駆除 } ①海老江保育場周辺は多くの魚介類が生息し、魚類で29種、エビ類で3種、その他3種が採集された。 ②最も多く採集されたのは、スジエビで次いでヨシノボリ、ヌマエビ、モツゴ、ヒガイであった。 ③ホンモロコ、ニゴロブナは保育場内で各々404万尾、619万尾フ化仔魚が放流された。しかし、フナ稚魚が保育前で約30尾、対称区で100尾採集されただけで、ホンモロコ稚魚は採集されなかった。 ④4月末～7月にかけては、エビの類、ハゼの類、モツゴ、ゼゼラ、ヒガイが多く生息しており、フ化仔魚、放流後の歩留りが懸念された。 ⑤ブラックバス、ブルーギルが採集されたのは8月中旬以降であり、ニゴロブナ、ホンモロコ稚魚への影響は生態学的にみて、他魚種よりも低いと思われる。 ⑥スジエビ、ヨシノボリの食害による影響は卵、フ化仔魚初期に大きく、保育場の利用計画(電照網生簀による15日間飼育)が確実に実施されればニゴロブナ、ホンモロコの初期減耗はかなり少なくなるものと予測される。		

8 主要成果の具体的数値 (図・表 等)

表1 湖北町海老江地先で採捕された魚種と採捕量 (S.61.4~10)

魚種	漁具	対 称 区				保 育 前				総 計
		沖 曳 網	小型定置	小 糸	計	沖 曳 網	小型定置	小 糸	計	
1 ア	ユ	277	50	200	527	38	84	157	279	806
2 ワ	カ		1		1					1
3 ホ	シ	1			1					1
4 タ	モ						1		1	1
5 カ	マ					1	4		5	5
6 ゼ	ゼ			77	77	1		21	22	99
7 モ	ツ	144	6	684	808	12	2	16	30	838
8 ウ	グ					1	1		2	2
9 ビ	ガ	410	1	17	428	371	2	3	376	804
10 ア	ブ	29			29	29			29	58
11 オ	イ	88	1	58	147	60	4	5	69	216
12 ハ	カ	57	2		59		13		13	72
13 ワ	タ		2		2					2
14 フ	ナ	101	9	22	132	58			58	190
15 ヤ	リ				98	1			1	1
16 イ	チ	2	9	87	198		2	10	12	110
17 シ	ロ	46	18	66	130	70	46	49	165	295
18 カ	ネ		20	27	47	40	36		76	123
19 タイ	リ		11	51	62	2	4		6	68
20 ド	ジ		1		1		1		1	2
21 ス	シ			1	1					1
22 ナ	マ		1		1					1
23 カ	ム		6		6					6
24 ヨ	シ	1,481	414	2	1,897	17,576	434		18,010	19,907
25 ウ	キ	22	2	3	27	213	10	10	233	260
26 イ	サ	9	66	14	89	28	89	4	121	210
27 ウ	ツ	1	1		2	2			2	4
28 ブ	ラ	12	1	2	15	31	15		46	61
29 プ	ル	233	93	15	341	2		1	3	344
30 ス	ジ	4,402	2,823	2	7,227	11,736	2,181		13,917	21,144
31 テ	ナ	247	30		277	356	51		407	684
32 ス	マ	474	3,109		3,583	610	282		892	4,475
33 エ	ビ	321	308		629	151	171		322	951
34 ガ	ン	10	122		132	434	39		473	605
35 オ	タ		1		1		1		1	2
36 不	明	2	1		3					3

表2 湖北町海老江地先で採捕された主な魚種の月別採捕量(沖曳網・小型定置・小糸で採捕されたもの)

区	月日	魚種	ゼゼラ	モツゴ	ヒガイの鰯	オイカワ	ハ	ス	フ	ナ	タナゴの鰯	ハゼの類	ブラックバス	ブルーギル	エビの類	備 考
対 称 区	4/18 (小糸なし)											50			451	
	4/30		58	255	3	1	1				30	32			144	
	5/15~16		3	36	9					2	32	774			3,348	
	6/2~3		15	101	11	15				3	17	164			1,545	6/2フナの産卵さかん
	6/18~19		1	222	3	22				2	15	35			696	
	7/9~11			25	10	15				4	9	14		7	315	
	7/30~31			6	215	4	1	16		41	64			7	1,008	
	8/18~21			20	99	1	1	9		18	221	4			169	沖曳エビ・ゴリ少ない
	9/17~19			40	39	4	45	25		145	437	1	25		2,390	
	10/1~2			99	60	85	12	71		31	222	10	302		1,024	
保 育 前	4/18 (小糸なし)											78			444	(保育場放流フ化イ子魚)
	4/30		19	2		1						12			754	4/⑤511千尾、4/28⑤511千尾
	5/15~16		1	2	9					1	179				1,004	5/2⑤511、5/10⑤818、⑦195
	6/2~3				2						3	65			1,993	5/19⑤460、⑦36、5/29⑤409、⑦584、6/1⑤664、⑦341
	6/18~19		2		1			2		6	585	1			4,139	6/9⑤51、⑦925、6/1⑦974
	7/9~11			4	13				21	48	109				313	8/2⑤192、⑦584、7/9⑦1,071、7/11⑦2874
	7/30~31				205			26		27	517				4,898	
	8/18~21			3	114	1	8	8		73	13,453	37			184	
	9/17~19			10	33	29	10	1		52	2,409	1	2		603	
	10/1~2			9	28	38	15			50	957	7			884	

⑦ニゴロブナ ⑤ホシモノロコ

9 今後の問題点

温水魚フ化仔魚の湖中施設における保護育成に関し、作業の簡素化と事業効率性を高める必要がある。また放流魚の動向を把握するため、標識方法の検討、採集方法の検討を要する。

10 次年度の具体的計画

ひきつづき、同調査を行なうが、特に網生質養成試験、放流魚の動向調査を重点的に実施する。